

資料・統計

2002年産科分娩統計

Annual Report of Deliveries in 2002

生野 寿史 西野 幸治 笹川 基
本間 滋 児玉 省二 高橋 威

Kazufumi HAINO, Koji NISHINO, Motoi SASAGAWA,
Shigeru HONMA, Shoji KODAMA and Takeshi TAKAHASHI

はじめに

2002年 1 月～12月の期間に当科で取り扱った分娩につき、その概要を報告する。

分娩件数

表 1 に過去11年間に当科で取り扱った分娩件数を示す。2002年は99件であり、前年度より40件(28.7%)減少した。

産婦の年齢分布を表 2 に示す。年齢は22～43歳であり平均34.3歳であった。初産婦は47例で全体の約36%、35歳以上の高齢初産婦は 4 例で約 4 %であり、昨年とほぼ同様であった。

表 1 年次分娩件数

年	分娩件数(件)
1993	358
1994	299
1995	277
1996	305
1997	282
1998	326
1999	196
2000	157
2001	139
2002	99

表 2 産婦の年齢分布

年齢	初産	経産
～19	0	0
20～24	5	1
25～29	26	12
30～34	12	18
35～39	3	17
40～	1	5
計	47	52

分娩様式

表 3 に分娩様式を示す。正常分娩は74例(74.7%)で、骨盤位分娩 1 例(1%)、吸引分娩10例(10.1%)、帝王切開分娩14例(14.1%)であった。今年度は双胎妊娠が 1 例あり、両児とも吸引分娩となっている。

帝王切開の適応を表 4 に示す。帝王切開14例のうち選択的帝王切開が 6 例、緊急帝王切開が 8 例に対して行われた。

表 3 分娩様式

正常分娩	74(74.7%)
骨盤位分娩	1(1%)
吸引分娩	10(10.1%)
帝王切開	14(14.1%)

表 4 帝王切開の適応

分娩進行停止	4
既往帝王切開	3
胎児ジストレス	3
骨盤位	2
児頭骨盤不均衡	1
常位胎盤早期剥離	1

妊娠合併症

妊娠合併症を表 5 に示す。妊娠中の合併症として妊娠中毒症 2 例を認めた。また合併症妊娠は子宮頸部上皮内腫瘍 1 例、卵巣嚢腫 1 例、ダウン症候群 1 例であった。

表 5 妊娠合併症

妊娠中毒症	2
子宮頸部上皮内腫瘍	1
卵巣嚢腫	1
ダウン症候群	1

在胎週数・出生体重・性別

在胎週数を表6に、出生体重を表7に示す。正期産(37週0日～41週6日)は91例(91.9%)であり、早産6例(6.1%)、過期産2例(2.0%)であった。37週0日、常位胎盤早期剥離による子宮内胎児死亡が1例あった。

また2500g未満の低出生体重児は7例(7%)、4000g以上の巨大児は1例(1%)であった。

表6 在胎週数

37週未満	6
37週	8
38週	14
39週	32
40週	25
41週	12
42週以上	2

表7 出生体重

2500g未満	7
2500～2999g	32
3000～3499g	42
3500～3599g	18
4000g以上	1

アプガースコア

アプガースコアを表8に示す。全出生児の95%が8点以上であった。7点の2例はいずれも5分後には9点・10点となっている。また6点であった1例についても5分後には8点となっている。0点の2例については前述の常位胎盤早期剥離の1例と22週4日での子宮内胎児死亡(原因不明)の1例である。

表8 アプガースコア(1分後)

10	0
9	80
8	15
7	2
6	1
5	0
4	0
3	0
2	0
1	0
0	2